



在学生のワタシ★アクション!
自分の壁を乗り越えて、
新たな領域を目指す。

特集01 ふるさとについて創造プロジェクト
特集02 いわて創造教育プログラム

ラボ★アクション!
キャンパスフレンズ・将棋部
KENDAI NEWS
ケンダイ広報局
卒業生のワタシ★アクション!



卒業生のワタシ★アクション!

地域×ITで、
岩手をもっと魅力的な場所に!



産学官の新たな連携で いわての未来を担う人材を!

「地(知)の拠点」から「地域の人材育成の拠点」へ。いま、大学が求められる役割が、大きく変わろうとしている。これまでの教育機関としての取り組みをさらに進化させ、まなざしを地方創生へ。今後の地域を牽引する「ひと」を育てる中核事業として、地域と一体となったプロジェクトがスタートしようとしている。

COCとCOCプラスとは?

文部科学省が平成25年度から進めてきた「地(知)の拠点整備事業(COC)」は、地域再生・活性化の拠点となる大学の機能強化を目指すもの。県内では本学と岩手大学が認定されている。また、平成27年度の事業である「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」は、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とするもの。大学が地域と連携し、地域が求める人材を養成するためのカリキュラム改革などの取り組みを支援する。



「キャリア・デザインII」の授業にて南部せんべいの蔵手屋で商品企画・開発を担当する営業部長にアドバイスを求める学生たち

地方創生のカギを握るのは ひとつづくりを担う大学だ

平成27年10月10日、盛岡駅前と盛岡駅ビル・フェザン内で、新商品の販売会が行われた。商品名は『くまが来る実』。県立大学総合政策学部3年次120名とフェザン・南部せんべいの蔵手屋(二戸市)が共同開発した商品だ。これは、前期の「キャリア・デザインII」の授業で実施されたプロジェクト。商品開発から販売まで携わる中で、学生たちは仕事の面白さや商品づくりのプロセスを学んだ。

このような学生の力を活かした地域貢献の取り組みをさらに進化させた、新プロジェクトがスタートした。それは、『ふるさと』という創造プロジェクト。県内他大学、自治体、企業などと連携した、今後の地方創生を担うビッグプロジェクトだ。

いま地方の人口減少が取りざたされているが、岩手県も状況は同じ。中でも18歳の進学・就職期と、22歳前後の就職期の県外流出が問題視されている。このような流れを受けて文部科学省では、平成27年度、地方創生の中心となる「ひと」の育成を目指す「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(以下COCプラス事業)」を公募。教育の拠点としての側面に加え、今後は地域ぐるみで人材を育成するための中核として大学を位置づける試みだ。本事業は、魅力ある就職先の創出と、地域が求める人材育成を実現する大学教育改革などの支援を目的としている。



砕いた南部せんべいと県産ハチミツ、国内産くるみを使った「くまが来る実」。売れ行きも好調だった。

地(知)の拠点大学として 新プロジェクトをスタート

これまで「地域再生の核となる大学づくり」を進めてきた本学は、今回のCOCプラス事業において、申請大学となった岩手大学と連携。産学官や地域との連携をベースに、若者の地域定着を図る『ふるさと』という創造プロジェクトを立案し、採択された。これには、本学と岩手大学のほか5校、岩手県や盛岡市など17自治体、岩手県商工会議所連合会など8団体が参加することになっている。

また、本学では、このプロジェクトで実施するカリキュラム改革などが評価され、「地(知)の拠点大学(COC)」にも認定。地域再生の中核として、さらには地方創生に向けた人材育成の中核として認められたのだ。

若者たちが地域に定着し、地域を担う人材となるためには、地域活性化の中核を大学が担い、雇用確保や活躍の場を作ることが重要。同時に、学生たちが主体的な学びから地域の魅力や課題に気づき、深く理解するための機会を作ることが大学の務めである。このプロジェクトは、地域における大学の可能性をさらに拓くものといえるだろう。

『ふるさといわて創造プロジェクト』に先駆け、これまでも本学は地域に根ざした様々な取り組みを行ってきた。その中から代表的な活動をいくつか紹介しよう。

[若者・女性の地域定着]

県域を超えたインターンシップで
地元企業への理解・定着を促す

地元企業に触れ、理解を深める機会となるインターンシップは、学生の地元定着を図る一番の近道。本学では平成27年度から、山形大学、会津大学、桜の聖母短期大学といった他大学と連携し、東北のインターンシップ情報を提供するポータルサイト『インターンシップin東北』を稼働した。本学学生はもちろん、首都圏の大学に進学した岩手県出身の学生が地元でインターンシップができるように、学生と企業のマッチングをサポート。県内での本学学生のさらなるインターンシップ参加も促しながら、制度と地元企業への理解・浸透を図っていく。



三陸鉄道(株)でのインターンシップの様子

[新産業&雇用創出]

地元企業とのコラボレーションで
学生のアイデアを商品開発に生かす

学生発案のコンビニ弁当や被災地の松で作ったキーホルダーなど、これまで本学では学生と地元企業の協働による商品開発やマーケティング活動に積極的に取り組んできた。今年度は、総合政策学部の3年生と盛岡駅ビル「フェザン」、二戸市の「南部せんべいの蔵屋」がコラボ。「コーヒーに合うせんべい」をコンセプトに、学生たちが商品開発から販売まで携わるプロジェクトを実施した。企業と二人三脚で商品づくりに取り組むことによって、学生目線を商品に生かすだけでなく、学生が企業の考え方や仕事のプロセスなどを学ぶ貴重な機会となった。



[起業家人材育成]

日頃の研究成果を社会に役立てる
本学初の学生ベンチャー企業が誕生

GPSが利用できない駅や地下街などの屋内で、位置測位やナビゲーションが行える技術として注目を集める、BLE (Bluetooth Low Energy) ビーコンを用いた位置測位技術。本学ソフトウェア情報学部でこの研究に携わる中心メンバー2名が、ライセンス販売を行うベンチャー企業「BlueIPU」を設立した。BLE位置測位技術は、公共インフラへの導入や幅広い分野でのビジネスが期待できる上、地域IT産業の活性化にもつながるもの。このような学生の起業に対し、知的財産権などに関する助言やシェアオフィスの手配など、全面的な支援を行った。



[三陸復興&先導モデル創出]

国境を超えた学生のつながりで
被災地の復興を継続的に支援

震災が発生した平成23年度より本学と米國オハイオ大学の学生が行っている、復興支援活動。平成25年度からは本庄国際奨学財団留学生も加わって、様々な国の学生たちが、被災地での活動に取り組んでいる。5年目となる今年度は、大槌町、大船渡市、陸前高田市に赴き、河川敷の環境整備活動や被災者へのお茶ペットボトル配布活動などを行ったほか、語り部による地震津波被災体験の講話や郷土芸能を通じた交流活動も実施。本学がコーディネーターとなって、海外と被災地をつなぐ継続的な支援活動を展開している。



ふるさといわて創造プロジェクト

若者・女性の地域定着

- ①地域企業・団体の魅力向上
 - *産学官連携の合同採用システム
 - *大学間連携の企業見学会&交流会
 - *企業・団体向け人材育成セミナー
- ②インターンシップの強化
 - *NPO連携によるインターンシップ運営体制の構築
 - *首都圏学生を対象とする実践型インターンシップの実施(オーダーメイド/体験型)
- ③地元大学進学率の向上
 - *中学生・高校生向けの大学生キャラバン
 - *地元枠の創設、奨学金変換減免制度の創設
 - *高校生向け進路発見プログラム

新産業&雇用創出

- ①大学資源活用の産業創生
 - *大学隣接インキュベーション/イノベーションセンターとの連携強化
 - *新規産業クラス形成のための共同研究制度の新設
- ②地域特産品の販路拡大・ブランド化支援
 - *産学官連携による地域特産品の首都圏・海外への販売展開支援
 - *学生参加の商品開発・マーケティング活動支援
- ③大学の知を活用した地方創生支援・人材育成
 - *地方創生実現に向けた共同研究の促進
 - *自治体の地方創生総合戦略の策定支援

**地域
力でつなぐ**
大学+地域関連団体

起業家人材育成

- ①地域リーダーとの協創体験
 - *地域課題に挑むリーダーのもとに学生を派遣して育成
- ②新事業への挑戦を支援
 - *模擬会社経営、起業家育成道場等

三陸復興&先導モデル創出

- ①なりわい・コミュニティの再生
 - *学生・教員による被災地支援活動の継続
 - *まちづくり・コミュニティ再建支援
- ②被災地先導モデル創出
 - *大学サテライトを活用した連携プラットフォーム
 - *企業CSV活動と連携した復興支援・地域創生活動
- ③被災地の産業振興支援
 - *新たな農林水産業ビジネス化支援
 - *被災地体験型の観光ビジネス支援
- ④復興人材の育成
 - *起業支援ネットワーク構築
 - *地域特性を活かした観光人材の育成
 - *水産高度化人材(水産プロモーター)の育成

いわて創造人材の育成(→P8特集2へ)

- ①地域志向教育の充実
 - *副専攻「いわて創造教育プログラム」の設置
 - *地域力を活用したアクティブ・ラーニング導入拡大
 - *地域中核人材を活用したキャリア教育推進
- ②課外活動による自発性・実践力醸成
 - *地域をフィールドとした課題解決型学習(地域創造IPU-eプロジェクト)

プロジェクト協働機関

- 【主幹大学】**
岩手大学(COCプラス大学)
- 【参加大学】**
岩手県立大学(COC大学)、富士大学、盛岡大学、岩手県立大学盛岡短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部、一関工業高等専門学校
- 【参加自治体】**
岩手県、盛岡市、宮古市、大船渡市、花巻市、北上市、久慈市、遠野市、一関市、陸前高田市、釜石市、八幡平市、奥州市、矢巾町、金ヶ崎町、岩泉町
- 【参加企業等】**
岩手経済同友会、岩手県中小企業家同友会、岩手県中小企業団体中央会、岩手県商工会議所連合会、岩手県商工会連合会、岩手県農業協同組合中央会、岩手県漁業協同組合連合会、岩手県森林組合連合会



プロジェクト採択を受けた記者発表

若者が活躍できる地域をつくるため
新たな人づくり・場づくりを進める

『ふるさといわて創造プロジェクト』には、関係大学が共同で取り組んでいくものと、各大学が独自に取り組んでいくものがある。大学それぞれの教育面での取り組みの上に、関係大学が連携して5つの事業「いわて創造人材の育成」「若者・女性の地域定着」「新産業&雇用創出」「三陸復興&先導モデル創出」「起業家人材育成」に取り組む。

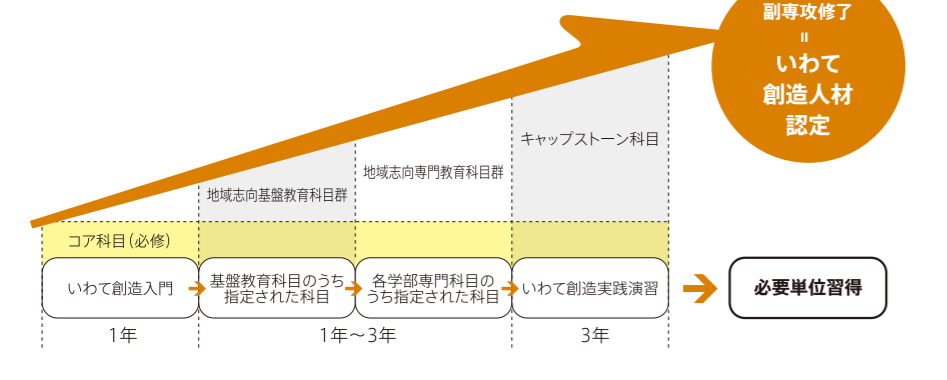
本学の取り組みは、まず教育面から「ひと」の基盤づくりを担うのが、「いわて創造人材の育成」。4学部それぞれの専攻の専門領域を生かしながら、被災地をはじめとした県内各地でのフィールドワークを通じ地域課題を学ぶ「いわて創造教育プログラム」を新設するなど、全学的にカリキュラム改革を実施。地域志向教育を充実させる。

このような人づくりをベースとして、卒業生の地域定着を図るために実施するのが「若者・女性の地域定着」。地元企業でのインターンシップの強化や中学生・高校生向けの大学生によるキャラバンの実施などに取り組んでいく。また、「新産業&雇用創出」では、学生参加による地域特産品の商品開発やブランド化支援、県立大学に隣接する滝沢市IPUイノベーションセンターとの連携による新産業や雇用の創出を、「三陸復興&先導モデル創出」では、これまでの被災地支援活動を継続するとともに、被災地体験型の観光ビジネスの支援、観光人材の育成などに取り組んでいく。

このような様々な取り組みを通して、地方創生の主役となる「ひと」を育て、いわての未来につなげていく挑戦が始まろうとしている。

せ、地域課題への意識が高い学生を育成していく。

副専攻【いわて創造教育プログラム】



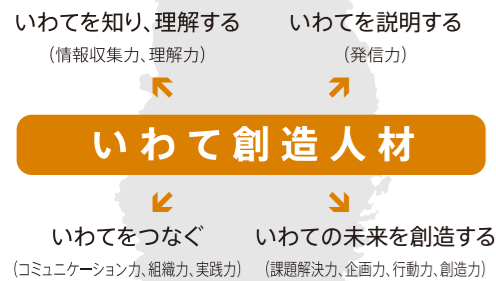
地域の方とのワークショップ。「地域創造学習プログラム」では、2年次の学生が企画立案し、当日のコーディネートまで行う。

特集 02 Features02 いわて創造教育プログラム

いわてに対する理解を深め、 いわてに根ざす人材を育む。

特集1でご紹介した『ふるさといわて創造プロジェクト』において、
県立大学のカリキュラム改革の柱となるのが「いわて創造教育プログラム」。
早い段階から地域の現状を学び、課題解決に取り組む力を育てる試みだ。

地域が求める人材像と能力



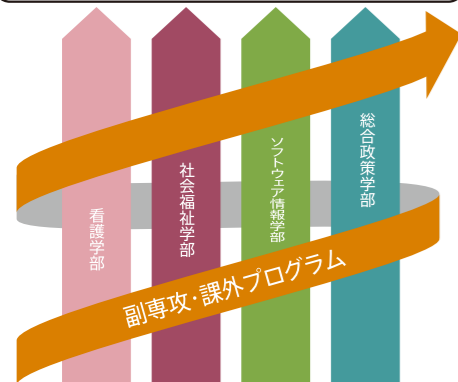
**いわて創造教育プログラムで
地域への学びを体系的に深める**

地方創生の主役となる「ひと」の育成を目指す『ふるさといわて創造プロジェクト』では、地域が求める人材育成を実現することが大きなミッションである。

このプロジェクトの中で、本学が重点的に取り組んでいくのが、「いわて創造人材の育成」だ。地域が求める人材像として、左に示す4つの能力を備えた人材を設定。地域志向科目群の体系化を図るとともに、主専攻の専門領域を活かした全学部共通の「いわて創造教育プログラム」を副専攻として設置する。

これは、地域や大学の特色などを学ぶ「いわて創造入門」を必修のコア科目として、岩手の産業・自然・文化・歴史・課題などを学ぶ地域志向基盤科目群、各学部の専門分野を背景に地域への視野を広げる地域志向専門科目

主専攻 学士課程プログラム



主専攻の専門領域を活かした学部横断型の副専攻を設置すると共に、課外活動として学生が自主的に取り組む地域活動プロジェクトを支援

【学生からの声】

平成26年度の「地域創造学習プログラム」で大槌コースの企画を担当。震災に偏らず、町の様々な魅力を伝えるために地域のことを調べるうちに、岩手への理解が深まり、大好きな場所になりました。勉強面でも問題意識が生まれ、主体的に学ぶように変化。授業の際も、吸収した知識をどう活かし、自分に何ができるのかを考えるようにしています。



古谷 彩華さん(看護学部4年)

平成27年度「地域創造学習プログラム」実施状況

- 陸前高田・大船渡コース[復興と地域づくりに学ぶ]
 - ・地域の現状視察・保健医療福祉未来研究会参加
 - ・魚市場見学・講話・語り部の講話・ワークショップ
 - 二戸コース[地域ブランドに学ぶ]
 - ・地酒「南部美人」社長、「浄法寺漆」関係者、温泉旅館
 - ・女将講話・地域おこし協力隊講話・ワークショップ
 - 北上コース[まちづくりに学ぶ]
 - ・市長講話・地域の現状視察・震災避難者受入の現状と課題把握
 - ・地域福祉事業所視察・ワークショップ
 - 洋野コース[復興と防災に学ぶ]
 - ・町役場職員講話・被災店舗経営者講話
 - ・自主防災組織講話・避難路等視察・ワークショップ
- ※上記の他にも、久慈・矢巾・紫波・葛巻・奥州コースで学習が行われ、12月に全体報告会を開催した。

地域での視察・講話・体験学習等を通して、現状と課題を考察するプログラムとなっている。

この他に、課外プログラムとして、学生の自主活動を支援する「地域創造IPUレブプロジェクト」を設定。地域の中に課題を見出し、学生自らがプロジェクトを企画・実施するプロセスを通じて、成長を促していくものだ。

本学では、地域志向教育の充実と課外活動による自発性・実践力の醸成により、いわての創造を牽引する人材育成に取り組んでいく。

**1年次から地域に触れることで
自ら考え、行動する学生へ**

平成25年度から平成27年度まで、本学では希望者を募り、被災地をはじめとした県内各地域でフィールドワークを行う「地域創造学習プログラム」を実施してきた。平成28年度からは、これをさらに発展させ、「いわて創造学習」として1年次と2年次に集中授業を行い、単位化する。

目群を経て、これまでの学修成果を統合化する「いわて創造実践演習」の4つで構成。最終的に全課程を修了した学生に対し、称号「いわて創造人材」と認定証の授与を行う予定だ。

Campus Friends

Vol.6

将棋部

県立大学のサークルや同好会、
学生会活動を紹介します「キャンパスフレンズ」。
生き生きと活動する学生たちの様子をチェックしてみよう。



DATA

将棋部

平成24年に、小山さんとソフトウェア情報学部
の先輩とで創部。現在の部員数は8名。活動日は毎
週火曜日の夕方。個人練習を基本としているが、
活動日には実際に対局して勝負勘を鍛えている。
[最新の対局成績]○小山怜央/第44回全国支
部対抗戦東日本大会個人戦優勝、第69回全日本
アマチュア名人戦優勝、第59回東北六県将棋大
会大将戦優勝○中川隼生/第43回全国支部名
人戦 東地区大会 準優勝、第71回 学生名人戦 ベ
スト8、第59回 東北六県将棋大会 先鋒戦 優勝



平成27年10月10日に、
「第69回全日本アマチュア名人戦・角落ち記念
対局」で、羽生善治名人と対局した小山さん。
(岩手日報 平成27年10月11日付日刊より)

「対局の時は、気持ちが一番大事。他のアマ
チュアタイトルやプロ棋戦でも勝つことが
目標ですので、つねに平常心で臨みたい」と、
小山さん。一方、中川さんは「全国大会で安定
した成績を残すことが目標。どんな場面や
相手でも、自分らしい将棋ができるように
頑張りたいです」と話す。必勝の手段がな
く、まだまだ開発する余地のあることが、将
棋の奥深さ。彼らの究める道もまた、「どこま
でも終わりのない厳しい道なのだ。」

「小山さんは初めて会った時から強かつ
た」と振り返る中川さんは、強豪として知ら
れる岩手高校将棋部の出身。週1回の活動
日に集まって練習することはあるものの、ほ
とんどが自宅での個人練習という。「イン
ターネット通信で対局したり、好きな棋士の
戦法を分析したり、毎日最低1時間は練習
していますね」と、中川さん。年に15、20の大
会があるため、日々将棋と向き合い、研鑽を
重ねることが大事だと2人は口を揃える。

その小山さんが所属する将棋部は、平成24
年に立ち上がった新設部。8名の部員のうち、
中心的に活動しているのは、小山さん、ソフト
ウェア情報学部3年の中川隼生さん、総合政
策学部1年の遠藤樹さんの3名だ。遠藤さん
は今年から将棋を始めたばかりだが、小山さ
んと中川さんは小学生時代からの将棋仲間。
出身県は違うが、小学校・中学校・高校の大会
で何度か対局することがあったという。

「小山さんは初めて会った時から強かつた」と振り返る中川さんは、強豪として知られる岩手高校将棋部の出身。週1回の活動日に集まって練習することはあるものの、ほとんどが自宅での個人練習という。「インターネット通信で対局したり、好きな棋士の戦法を分析したり、毎日最低1時間は練習していますね」と、中川さん。年に15、20の大会があるため、日々将棋と向き合い、研鑽を重ねることが大事だと2人は口を揃える。

将棋には必勝という形がない。
だから面白い、だから苦しい。



TAKIZAWA CAMPUS 10.24,25

滝沢・宮古キャンパスで大学祭!

10月24、25日の2日間で大学祭を開催しました。滝沢キャンパスの「IPU Festa 2015」は「ひだまり〜集う笑顔(かがやき) 広がる出会い」をテーマに、来場した約1万4千人が模擬店やアーティストライブ、ステージイベントなどで活気あふれる大学祭を満喫しました。オープンキャンパスも同時開催し、高校生に大学を身近に感じていただきました。一方の宮古キャンパスの「蒼翔祭」は「嘩(ハナ)〜はなやかに輝く〜」をテーマに開催。恒例の仮装コンテストやお化け屋敷、大人気のビンゴ大会などを楽しみに、約5百人が来場しました。



MIYAKO CAMPUS 10.24,25



9.10,11



9.18

研究成果発表会を2部構成で開催

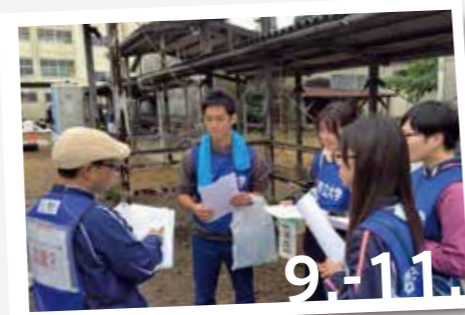
岩手県立大学研究成果発表会を2部構成で開催しました。パート1の9月10、11日は盛岡市のプラザおでって、いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター(i-MOS)と、地域政策研究センターの講演発表を、様々な研究のパネル展示とともに2日間で実施。またパート2は9月18日に滝沢キャンパスで開催。地方創生をテーマとする課題について発表とパネルディスカッションを組み合わせる行ない、課題への理解を深めていただきました。



9.19,20

里山利用と自然環境を考える「フィールド科学体験」

9月19日と20日の2日間にわたり、高校生を対象に総合政策学部のオープンラボ「フィールド科学体験」を行いました。総合政策学部の環境系履修モデルのカリキュラムを体験してもらうことを目的に、今年初めて実施したものです。参加者は、教員や講座の学生のアドバイスのもと、フィールドに出て里山の調査や林づくり作業を体験。作業後は、林づくりのときに出た枯木などを燃料にして石窯でピザを焼きました。楽しみながら里山の利用や自然環境について考える機会になったのではないのでしょうか。



9.11

関東・東北豪雨災害の被災地でボランティアを実施

9月に発生した関東・東北豪雨災害の被災地である栃木県鹿沼市と茨城県常総市で、本学の学生有志が9~11にかけて4回の支援活動を行いました。お隣の盛岡大学のほか、以前から災害支援の研修等を通じて交流があった宇都宮大学、広島大学の学生たちと合同で実施。訪問による被災住民のニーズの聞き取り調査や、児童館が被災した地域での親子向け遊びイベントの開催、浸水家屋の床下清掃活動などに取り組みました。初回の活動後に学内で行われた活動報告会では、今回の経験を通じて被災者に寄り添うことの大切さを実感したなどの感想が語られました。

建築CAD検定試験3級「最優秀団体賞」を受賞!

盛岡短期大学部が第61回建築CAD検定試験の3級「最優秀団体賞」を受賞しました。この賞は、一般社団法人全国建築CAD連盟が行なう設計・製図に使用するCADソフトの検定試験において、その年の各級の部門で最も成績が優秀と認められた団体に送られるものです。盛岡短期大学部では、生活科学科生活科学専攻2年生で今夏に3級を受験した20名全員が合格。団体での合格率・合格者の平均点等を評価されて、初の受賞となりました。



9.29

みんなで拾ったどんぐりで森づくり!

「どんぐり拾いと植樹」を10月20日に行いました。平成19年から川前保育園の年長さんを招いて毎年行っているイベントで、9回目の今回は20名の園児が参加してくれました。虫食いどんぐりにどんぐり虫を見つけたりしながら賑やかに拾ったどんぐりを種まき後、植樹をする池に移動。植え終わった苗に「大きくなあれ」のおまじないをしました。みなさんが大学生になる頃には、どんぐりがたくさん生る森ができているかもしれませんね。



10.20

IPUゲストハウスがオープンしました

11月7日にIPUゲストハウスの開所式を行いました。この施設は本学に教育のために来訪する国内外の研究者や本学の学生(留学生を含む)などが宿泊する施設で、滝沢キャンパスに隣接する馬っ公園内にオープンしたものです。式典には達増岩手県知事をはじめ、今年で交流10周年を迎えた中国・大連交通大学から黄明軟件学院院长や過去、本学に在籍していた留学生が来賓として参加しました。式典後は内覧会も実施しました。



11.7

※IPUゲストハウスの情報 <http://www.iwate-pu.ac.jp/living/guesthouse.html>



11.29

宮古キャンパス講座・地方創生フォーラム「宮古で暮らす、未来をつくる」

11月29日に宮古短期大学部を会場に、平成27年岩手県立大学公開講座・宮古キャンパス講座として地方創生フォーラム「宮古で暮らす、未来をつくる」を開催しました。第1部では鈴木学長が「岩手県立大学からはじまる地方創生」と題し、基調講演を行いました。また、第2部では山本宮古市長を迎え、パネルディスカッションを行いました。参加者の方々からの質問・意見を中心に、文化、観光、雇用等についての議論が活発に行われました。

鈴木厚人学長が基礎物理学ブレークスルー賞を受賞!

本学の鈴木厚人学長と東北大学の観測施設「カムランド」の研究チームが、2016年基礎物理学ブレークスルー賞を受賞しました。この賞はアメリカに本拠地を置くブレークスルー賞財団が授与する賞で、基礎物理学で多大な業績を上げた研究者に毎年贈られています。今回、ニュートリノ振動の発見と研究についての功績を認められ、2015年ノーベル物理学賞受賞の梶田隆章氏ら全7名(5実験)での共同受賞となりました。発表及び授賞式は、米国にあるNASAのエイムズ研究センターにて現地時間11月8日(日本時間9日)に行われました。2012年の基礎物理学賞の設立以来、今回が日本人では初めての受賞となります。



11.8



This is My Action!

OB&OG Voice

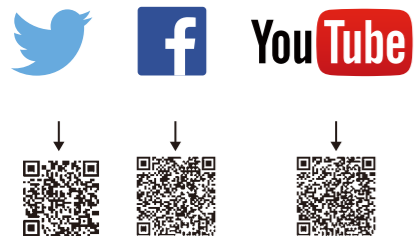
大学で学んだことを自分の糧としながら、様々な分野で活躍する県立大学の卒業生たち。それぞれの職場や地域で頑張っている卒業生の「ワタシアクション!」をご紹介します。

編集後記

今回はいつもと構成を変えて特集1と特集2を連動して文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」に採択された「ふるさと創生プロジェクト」と、それに伴う本学の取り組みやカリキュラム改革をお伝えしました。「これから本番」の話ではありますが、本学が以前から積極的に行ってきた地域に根差した教育や就職支援、震災復興等の取り組みを、他大学・地域と協働してさらに推進するものです。今後も様々な形でご紹介していく予定です。(企画室・三輪)

岩手県立大学のホットな情報発信中!

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などをリアルタイムに発信するためTwitter公式アカウント【@IPU_official】、Facebook、YouTubeで情報提供を行っています。是非、ご覧ください。



広報誌【IPUアクション!】へのご意見・ご感想や、広報に関する皆様のご意見をお聞かせください。(下記の企画室のあて先までお寄せください)



岩手でも、東京と同じように働ける。ITの力で、地域の可能性を広げたい。

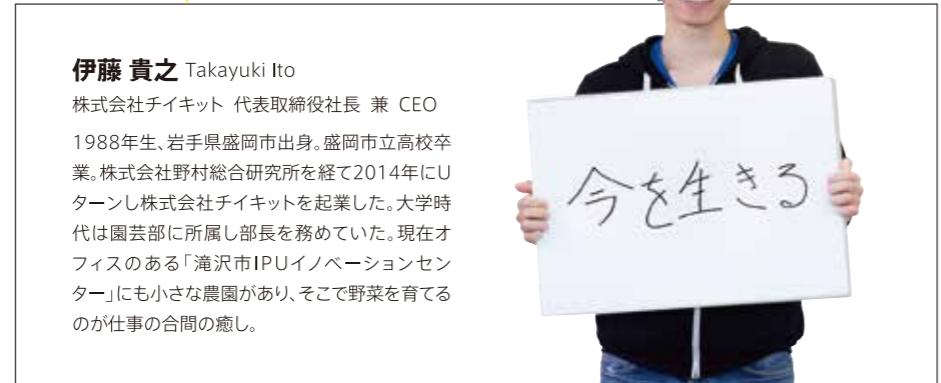
クライアントの多くは東京。時には海外のエンジニアともやりとりをしながら、温泉や登山など岩手暮らしも満喫している

プログラミングに興味があって、岩手県立大学のソフトウェア情報学部に入学。予備知識はほぼゼロだったので最初は苦労しましたが、徐々におもしろさと可能性を感じるようになりました。「IT企業が集まる東京で自分の可能性に挑戦したい」と就職活動をしている時、大学で学んだ知識や技術を高く評価してもらえたことも大きな自信に。今も大学で身につけたスキルは自分の支えになっています。

東京の企業で3年半働いた後、岩手に戻って起業しました。きっかけは大学のOB仲間と作ったスマートフォンアプリ。不特定多数の個人・企業と仕事の受発注をする「クラウドソーシングサイト」を通じてアプリ開発の依頼が来るようになり、納品したアプリの評判もよかったことから「どこにいても仕事はできる」と確信しました。「好きな人と好きな場所で好きな仕事をする環境」を岩手につくりたいと思い、2014年8月、アプリ開発のメンバーたちと会社を立ち上げました。

「地域×IT」が社名の由来で、ITで「地域でも働ける場」をつくり、地域の魅力を増やすのがミッション。学生アルバイトを雇用して、学びを実践する場も提供しています。クラウドソーシングの運営会社「ランサーズ」主催の「Lancer of the year 2015」で、「地域を元気にするランサー賞」に選ばれるなど、評価をいただいておりますが、会社としてはまだまだ。実績を重ねながら、農業や観光をテーマにした「岩手らしいサービス」の開発を、手がけていきたいと考えています。

ワタシ★アクション!



伊藤 貴之 Takayuki Ito

株式会社チイキット 代表取締役社長 兼 CEO

1988年生、岩手県盛岡市出身。盛岡市立高校卒業。株式会社野村総合研究所を経て2014年にUターンし株式会社チイキットを起業した。大学時代は園芸部に所属し部長を務めていた。現在オフィスのある「滝沢市IPUイノベーションセンター」にも小さな農園があり、そこで野菜を育てるのが仕事の合間の癒し。

...See You Next Action!

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。そんなCAたちがお送りする、県大生の県大生による県大生の今を伝えるためのコーナーです。(*´▽`*)

ケンダイ★広報局

学生★企画



推しアプリちゃんねる 大学生のオススメアプリを大公開!!
みんなのスマホをのぞいちゃいます!!(・ω・*)チラ...

就活系 「Teppan」

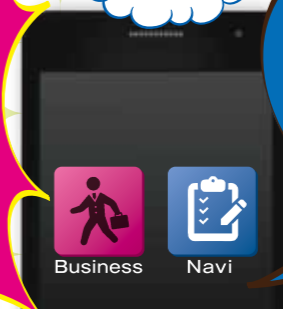
A1. お礼メールなどのテンプレが表示されるアプリ。就職活動において合同説明会やOBOG訪問のお礼メール作成の際に活躍しています。
A2. 後回しせずに御礼ができるためかなり役に立っています!
総合政策学部4年 ななちゆう



Q1→どんなアプリ
Q2→どんなときに使ってる?

日常系 「乗換NAVITIME」

A1. 電車の時刻表が確認できるアプリ。簡単に時刻表を確認することができるので、便利!!
A2. 電車を利用する時、とても役に立っています!これで乗り換えららく♪
看護学部1年 ノリオ



暇つぶし系 「comico」

A1. マンガが毎週更新されるアプリ。曜日によって更新されるマンガが違うので、毎日楽しめます。
A2. バス通学なので、通学時間中に読んでいます。あとは、時間が空いたときに使うこともあります。
ソフトウェア情報学部3年 松太郎



自炊系 「クックパッド」

A1. 料理のレシピを簡単に検索できるアプリ。寮生活なのでご飯が出ない土日に使うことが多いアプリです。
A2. 手軽で簡単に作れる料理が検索できるので重宝しています!
盛岡短期大学部2年 ごえちゃん



【Twitterアカウント】@IPUCA_ 岩手県立大学キャンパスアテンダント公式アカウント!!
ツイート内容は大学の公式見解ではありません。大学生目線でCAメンバーがつつやきます!!ハッシュタグは#ipu_ca



CAST

ここでは、このページを担当しているメンバーを毎号紹介していきます(´▽`)/



A1:「BEAT MP3」
→自分のスマホにある曲で遊べる音ゲー♪
A2:暇つぶし!暇つぶし!
A3: GALAXY
看護学部1年 ちえりー

Q1→オススメアプリ Q2→どんな時に使う? Q3→スマホの機種

盛岡短期大学部国際文化学科1年 えりりん



A1:「カナヘイの通信料チェッカー」→データ通信使用量がまるわかりアプリ
A2: SNSや動画を見た後に通信料をチェックします!
A3: iPhone6

A1:「fibusPaint X」
→お絵かきアプリ
A2: 暇なときや、無性に絵が描きたくなったときに使いますw
A3: iPhone5s
総合政策学部1年 えんどう〜

